

産地生産基盤パワーアップ事業
(都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書)

都道府県名 秋田県

変更： 年 月 日

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

（２）販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標															スマート農業推進枠		地域（県又は国を含む） の価格（販売単価）			補正係 数	価格補 正後の 実績	事後評価の検証方 法（※定量的な検 証ができるこ と。）	達成率 （％）	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考															
					現状					目標					実績					年度	導入・定着の取組 の実施内容	事業実施 前年度	目標年度																							
					年度	面積	生産量又は		価格（販売単価）	生産コスト	年度	面積	生産量又は		価格（販売単価）	生産コスト	年度	面積	生産量又は				価格（販売単価）	生産コスト																						
							単位	出荷量					単位	単位					単位													単位	単位	出荷量	単位	単位	単位	単位								
能代市 農業再生協 議会	5	扇田・ 荷八田	ねぎ	露地野菜産地（ねぎ）の形成の推進 ①水稲依存の営農 体質からの脱却を めざし、水稲と園 芸作物との複合経 営の取組 ②高性能機械や育 苗施設等の導入に よる省力・低コス トによる生産の取 組 ③県内トップシュ アを誇るねぎの全 国ブランド化に向 けた高品質・安定 供給の取組を推進	販売額の10% 以上の増加 （総販売額） （64.8%増 加）	28	61,768千円	7.4	ha	182	t	340	円/kg	-	R3	101,768千円	12.2	ha	314	t	324	円/kg	-	R3	104,295千円	14	ha	316	t	320	円/kg	-			J A等の販売 データより当該 地区の販売額を 把握	146.2%	作付面積、販売量とも 目標数量を達成する ことができた。今後も作 付面積及び販売量を維 持し、高品質なものを 出荷できるよう指導す る。	作付面積、販売量とも 目標数量を達成する ことができた。今後も作 付面積及び販売量を維 持し、高品質なものを 出荷できるよう支援す る。	R4評価							
湯沢市 農業再生協 議会	1	湯沢市（湯 沢・福 川・雄 勝）、 羽後町（三 輪・西 馬内・ 仙道・ 田代）	キュウ リ トマ ト ねぎ 枝豆 施設花 き（トル コギ ョウ、ス トック） 露地花 き（小 菊）	J A管内の中心部 に集出荷施設が稼 働し、集出荷体制 が整備されること により余剰労力が 生まれ、個々農家 の生産規模拡大が 可能となる。また 新規取組者の増員 のほか、2つの ネットワーク園芸 団地の形成による 生産振興の取り組 みが加速する。 大型の予冷施設 が整備され高品質 安定出荷が可能と なり、首都圏等へ の有利出荷が実現 される。	販売額の10% 以上の増加 （総販売額） （23.9%増 加）	28	計 771,792千円 キュウリ 250,306千円 トマト 207,199千円 ねぎ 112,662千円 枝豆 90,031千円 施設花き（トル コギョウ） 72,522千円 施設花き（スト ック） 11,179千円 露地花き（小 菊） 27,893千円	計 93.3 キュウ リ 14.5 トマ ト 10.2 ねぎ 19.6 枝豆 40.5 施設花 き（トル コギョウ） 2.8 施設花 き（スト ック） 0.9 露地花 き（小 菊） 4.8	計 3,649,200 キュウリ 1,001,300kg トマト 740,000kg ねぎ 479,500kg 枝豆 158,000kg 施設花き（トル コギョウ） 480,300本 施設花き（ス トック） 183,700本 露地花き（小 菊） 606,400本	-	-	R3	計 956,318千円 キュウリ 265,720千円 トマト 272,919千円 ねぎ 159,168千円 枝豆 107,266千円 施設花き（トル コギョウ） 97,362千円 施設花き（スト ック） 19,991千円 露地花き（小 菊） 33,892千円	計 109.3 キュウ リ 14.6 トマ ト 13.1 ねぎ 26.4 枝豆 45.5 施設花 き（トル コギョウ） 3.7 施設花 き（スト ック） 1.2 露地花 き（小 菊） 4.8	計 4,426,944 キュウリ 1,022,000kg トマト 957,610kg ねぎ 661,320kg 枝豆 186,550kg 施設花き（トル コギョウ） 640,544本 施設花き（ス トック） 222,120本 露地花き（小 菊） 736,800本	-	-	R3	計 772,746千円 キュウリ 246,186千円 トマト 176,568千円 ねぎ 148,116千円 枝豆 85,170千円 施設花き（トル コギョウ） 71,180千円 施設花き（ス トック） 11,794千円 露地花き（小 菊） 33,732千円	計 96.3 キュウ リ 13.8 トマ ト 7.9 ねぎ 28.9 枝豆 37.5 施設花 き（トル コギョウ） 2.7 施設花 き（スト ック） 0.6 露地花 き（小 菊）	計 3,405,900 キュウリ 934,800kg トマト 269 ねぎ 562,200kg 枝豆 668,400kg 施設花き（トル コギョウ） 166,600kg 施設花き（ス トック） 379,900本 施設花き（ス トック） 131,200本 露地花き（小 菊） 562,800本	-	-		キュウリ 235 トマト 269 ねぎ 358 枝豆 569 施設花き（トル コギョウ） 146 施設花き（スト ック） 100 露地花き（小 菊） 44	キュウリ 253 トマト 296 ねぎ 277 枝豆 500 施設花き（トル コギョウ） 175 施設花き（スト ック） 87 露地花き（小 菊） 44	784,123千円	J A出荷伝票や販 売額・数量が確 認できる種類に 基づき実績検証 を行う。	6.7	キュウリ・地区全域で需要による施設復旧の遅れや農作業の遅れから、栽培面積、生産量ともに減少した。令和4年度は適期作業を推進し、県とともに災害に対応した施設管理の指導や露地パック販売拡大を目指す。 トマト・地区全域で需要による施設復旧の遅れや農作業の遅れから、栽培面積、生産量ともに減少した。令和4年度は適期作業を推進し、県とともに災害に対応した施設管理の指導する。	作付面積は概ね目標を達成しているものの、気象条件により単収の目標が達成できていないことから、引き続き気象状況に即した栽培管理と適期作業を指導し、目標達成を目指す。	中山間地 域所得向 上支援事 業と連携 R4評価														
能代市 農業再生協 議会	6	ニツ井	ねぎ	露地野菜産地（ねぎ）の形成の推進 ①水稲依存の営農 体質からの脱却を めざし、水稲と園 芸作物との複合経 営の取組 ②高性能機械や育 苗施設等の導入に よる省力・低コス トによる生産の取 組 ③県内トップシュ アを誇るねぎの全 国ブランド化に向 けた高品質・安定 供給の取組を推進	販売額の10% 以上の増加 （総販売額） （247.8%増 加）	28	12,443千円	1.9	ha	36	t	348	円/kg	-	R3	43,277千円	5.6	ha	128	t	339	円/kg	-	R3	36,332千円	6.3	ha	120	t	285	円/kg	-			目標年度の114%程度 の作付面積であるもの の販売量、販売額が目標に達していないのに加え、単価が低く目標 達成には及ばなかつた。 面積拡大はできていないものの、収量に結び付いていないと見受けられるので、目標達成に向けて単収の増加が図られるよう指導していく。	作付け面積は計画以上に拡大できたが、やや単収が目標に届かず、単価も目標に届かなかったことから、目標を達成できなかった。収穫作業や防除作業を適期に実施することで、歩留まりと品質の向上を目指すよう指導する。	R4評価									
北秋田 市農業再生協 議会	3	米内沢	露地野菜 （にんにく、 だいこん）	露地野菜産地（にんにく・だいこん）の形成の推進 ①高性能機械化一貫 体系の導入による 労働効率向上で 規模拡大をめざす。	販売額の10% 以上の増加 （総販売額） （98.5%増 加）	28	59,021千円	にんにく 13.5	ha	だいこん 2.5	にんにく 25,825	kg	だいこん 55,754	にんにく 1,997	円	だいこん 134	-	R3	117,151千円	にんにく 14	ha	だいこん 4	にんにく 45,264	kg	だいこん 140,000	にんにく 2,300	円	だいこん 116	-	R3	61,533千円	にんにく 18.1	ha	だいこん 3.4	にんにく 18,586	kg	だいこん 53,550	にんにく 2,783	円	だいこん 184	-			にんにくは欠株が多く、その後の生育も緩慢だったため低収となった。その要因として、種子の品質劣化が進んだためと思われる。品質劣化が進まないように販種から5作目まで全て販売することを目指すとし、品種の切り替えをスムーズに行うことを重点的に指導していく。だいこんは、収穫適期を達し品質低下が見られたため、土づくりとして堆肥や緑肥を使用することや適期収穫に向けた作業体制の見直しについて指導していく。	にんにく まずは、全ての作付けを由来のはっきりした種子に切り替え、5作目まで全て販売する体系の確立に向け協議会と連携して支援する。また、今後は土づくりに力を入れ、プラウによる天日返しや緑肥のすき込みも行うよう指導する。だいこん 排水対策の徹底と収穫作業の人員配置の見直し等による適期収穫対策を指導していく。	R4評価

